

事業所名

重症児者多機能型デイサービスあすなる

支援プログラム（児童発達支援）

作成日

2024年

10月

25日

法人（事業所）理念		全スタッフおよびご利用者様とご家族が地域で、豊かに暮らせる幸せな社会を創造します。									
支援方針		集団活動を行うことで他児との交流を図っていく。関わりの中で意思表示ができるように支援していく。 季節のイベント、公園などの広々とした屋外に出かけ季節の花などに触れ楽しく過ごすしていく。 常に子どもたちが、楽しく通えるように色々な活動を考え体験することで好きなこと見つけながら興味の幅を見つけていく。									
営業時間		10	時	0	分から	15	時	0	分まで	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容											
本人支援	健康・生活	来所時、バイタルサイン測定を行う。意思表示が困難である子どもの障がいの特性及び発達の過程・特性等に配慮する。 食事、排せつ、活動中での小さなサインから心身の異変に気づけるよう細やかな観察を行い、異変が見られたら場合によっては速やかにご家族に連絡し対応していく。 全身の清潔と全身状態の観察を行う。									
	運動・感覚	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢維持や上肢・下肢の運動・筋力維持、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持を図る為、本児のにあった体勢や機能維持を図りながら療育・リハビリを行う。 制作・遊び等を通し、保有する視覚・聴力・触覚、味覚等の感覚を取り入れながら体験させながら好き物を見つけていく。									
	認知・行動	天気・気温・日付の把握と確認を行う。音楽療法を取り入れ、楽器に触れ、触覚・聴覚への発達を支援する。 季節の制作活動を行い、季節に合った題材を取り上げることで四季や文化を学びきっかけを作る。また、感覚や感触等、五感を刺激し、表現することを楽しむ。 散歩・公園などの外出を通し、季節の変化への興味など感性形成を促す。									
	言語 コミュニケーション	絵本の読み聞かせ・パネルシアター・ペープサートなどを通し、自発的な発声を促す支援を行う。 文字や記号、絵カードなどコミュニケーション手段を適切に活用し、環境の理解や意思の伝達を支援する。（コミュニケーション機器の活用） 手話・音声・指さし・身振り・サイン等を多様なコミュニケーション手段を用いて、意思表示、意志の表出ができるよう支援する。									
	人間関係 社会性	スタッフと継続的に関わり、コミュニケーションを通して、安心感・信頼関係を構築する。 遊び等を通して、他のお友だちとの関わり対人関係の芽生えを支援する。 個別活動から集団活動への移行には、一人ひとりの特性を理解し状況・状態に合わせて支援を行う。									
家族支援		必要に応じて自宅に訪問、事業所等での対面、または送迎時にて相談援助を行う。 日常生活において、困りごと等、社会資源が不足していないか確認し、必要であればアドバイスを行う。 他の兄弟、姉妹、保護者様と関わる機会を増やすための交流会を実施する。				移行支援		必要に応じて教育機関と連絡を取り、日々の様子を交換し、連携を図る。 ライフステージの切り替えを見据えた将来的な移行に向けた準備、移行先との連携。			
地域支援・地域連携		他の通所支援事業所との交流と情報交換。 通所する児童に関わる地域の関係者・関係機関と連携を図る。 市・地域が主催するイベントの見学。				職員の質の向上		職員の勉強会や研修を行う。（虐待防止・身体拘束等） ケース会議。 各資格所得の支援。			
主な行事等		季節に合わせたイベント実施（お花見・夏祭り・水遊び・ハロウィン・秋祭り・クリスマス会・初詣・遠足） 近隣施設・公園へお出かけ。 お買い物体験。防災訓練。									